



2026年(令和8年)8月6日

大広と立命館大学デザイン・アート学部が包括連携協定を締結 —「Social Design Board」を推進ハブとし、新たな価値創造を 探究する産学連携が本格始動—

株式会社 大広(本社:東京都港区、代表取締役社長:泉恭雄、以下「大広」)は、立命館大学デザイン・アート学部(所在地:京都市北区、学部長:赤間亮)と、教育・研究、地域社会連携、人材育成など、多領域にわたる共創を目的とした包括連携協定を2026年6月18日に締結いたしましたことをお知らせします。



立命館大学デザイン・アート学部 学部長 赤間 亮 (左) 株式会社大広 執行役員 森内 克也 (右)

本協定は、立命館大学が2026年4月に新設したデザイン・アート学部が掲げる「社会生活にクリエイティブで変革を促す」というCX(クリエイティブ・トランスフォーメーション)の概念と、大広が培ってきた「顧客価値に基づく統合的なコミュニケーションデザイン・ブランド育成」における実践的知見を強固に接続し、企業や地域・社会との協働を通じて、学生・教員・実務者が共に新たな価値創造の可能性を探究する、持続可能な産学連携の基盤を構築してまいります。



■協定締結の背景

現代の企業活動では、商品・サービスの機能的価値や効率性だけでなく、生活者にとっての意味、社会との関係性、ブランドが媒介する経験・体験の質が重視されています。このような状況において、立命館大学デザイン・アート学部「美的感性」「意味の探究」「デザインによる関係性の再構成」「アートを通じた世界の捉え直し」を重視する研究教育と、大広の「顧客基盤の持続性と社会の持続性」をともに見据えたブランディング知見、といった両者の特色と資源を掛け合わせることで、現代社会に要請される新たな知の生成と社会実装を両立させるため、本協定の締結に至りました。

■主な連携・協力事項

両者は相互に連携・協力し、教育と研究の高度化、社会連携の推進、および人材育成に寄与することを目指します。具体的な取り組みとして、先行して立ち上げている共創プロジェクトチーム「Social Design Board」を本協定の推進ハブとしても位置づけ、企業・地域・生活者をめぐる多様なテーマを対象に、研究教育と社会実装を往還する連携のあり方の検討、連携の推進をおこなってまいります。

Social Design Board

■立命館大学デザイン・アート学部について

社会科学・人文科学、自然科学分野からなる総合大学である立命館大学は、17 番目の学部として「デザイン・アート学部」を、22 番目の研究科として「デザイン・アート学研究科」を 2026 年 4 月に新設しました。

人工知能や仮想・複合現実などのデジタル情報技術の発展を背景に、人間本来の思考と創造性のあり方そのものが問い直されています。長い歴史と重厚な文化のもと、革新的な知が創出されてきた京都において、美的感性に裏打ちされた、「問題解決力」「問い直し力」「共創力」「問題発見力」「創造的思考力」を総合的に身につけた、クリエイティブで柔軟な思考を涵養します。

■株式会社大広について

株式会社大広は、1944 年に大阪で設立された、東京・大阪の二本社体制を持つ総合広告会社であり、博報堂DYホールディングス傘下の企業です。全国に複数の事業所とグループ会社を展開し、テレビ・デジタル・ラジオ・新聞・雑誌・OOH など幅広い領域で広告・コミュニケーションサービスを提供しています。特にダイレクトマーケティング領域に強みを持ち、長年にわたり培ってきた知見と実績を活かし、顧客価値を起点としたマーケティング支援を推進しています。近年は博報堂グループとの連携を強化し、より高度で統合的なソリューションを提供しています。

「顧客と社会に愛されるブランドを企業の志とともにつくる」をミッションに掲げ、顧客基盤と社会の持続性の双方を見据えたブランディングのパートナーとして、企業の成長と社会課題の解決に貢献しています。